

# つじなが便利



第297号

発行日 R3. 6. 1

発行 辻中 医院

編集担当者 秋月 優花

○診療時間 眼科 月・水・金 → 午前（9時～12時）& 午後（3時半～6時半）

火・木・土 → 午前（9時～12時）

○休診日 眼科 日曜・祝祭日・火、木、土曜日午後

※内科の診療に関しては、受付までお問い合わせ下さい。

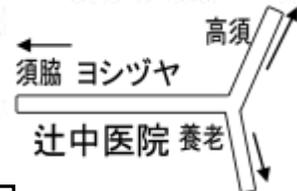
○ホームページアドレス <http://www.tsujinaka.jp>

つじなが便利

検索

○Eメールアドレス

tsuji\_con@mti.biglobe.ne.jp



ブン、ブン、フブーン

院長 辻中 まさたけ

近所の開業医の先生お2人、県職員1名と滋賀県まで大きなバイクでツーリングにいった。私のバイクは1200CCのハーレーダビッドソン（海外ではデイビットソンと発音する）ではあるが、街乗り用で100キロ走るのが限界である。他の方々の大きいバイクは長距離走れるようになっているので、どうしても途中で給油しないといけない私のバイクは足手まといとなる。また、小回りは効くが直進性の安定性に乏しくツーリングでは人一倍疲れる。皆さん私より年配であるが、元気いっぱいであり、ついていくのが精いっぱいであった。そして、次の日にはクラッチレバーを握る私の左手がみごと筋肉痛になっていた。

（次ページへ続く）

とはいうものの、大学生のころは原付の 50CC バイクで岐阜まで  
帰ってきたものだ。体力の衰えは否めない。



令和3年5月19日

## 勉強会がありました！

5月25日火曜日に大塚製薬  
によるドライアイの勉強会が当院  
でありました。ドライアイはコン  
タクトレンズをしている人がなり  
やすく、長時間パソコンやスマホ  
を使用している人もなりやすい



現代病です。ドライアイでは、涙の量が減ったり、涙の蒸発がはやくなったりし  
て、乾燥、コロつき、疲れという症状があります。対策としてはコンタクトレン  
ズを変えたり、目薬による治療があります。

文責 秋月

# 超広角走査型レーザー検眼鏡 Optos

## 可能性を切り拓くテクノロジー

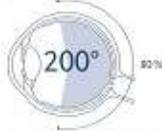
Daytona, Daytona plus は Optos 社が開発した超広角(HWP<sup>®</sup>)画像デバイスです。

眼底の約80%の領域をカバーする直径200度の広い視野範囲を実現しました。

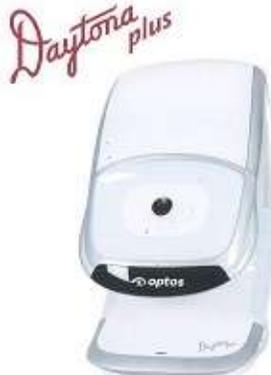
詳細軸で、中心部から周辺部までの合成カラー画像、レッドフリー画像、グリーンレーザーでの眼底自発蛍光画像の撮影が可能のため、特に周辺部の疾患の観察に寄与します。

コンパクト設計の卓上型モデルで、設置場所を選びません。より使いやすく、より迅速な画像撮影に寄与します。

さらに、Daytona plus は Calloria と同等の光学系とビュアーを搭載しており、Auto-Montage ソフトも使用可能です。

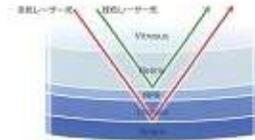


Daytona, Daytona plus での撮影範囲



## 特長

- ・眼底の異なるレッドレーザーとグリーンレーザーの光源を搭載。それぞれの特徴を併用することで、病変の病位を特定しやすくなります。各レーザーの画像を個別に表示することも可能です。
- ・「レッドフリー」のグリーン(532 nm)レーザーは、感覚神経から RPE までを表示します。
- ・レッド(635 nm)レーザーは、RPE から網膜層までを表示します。

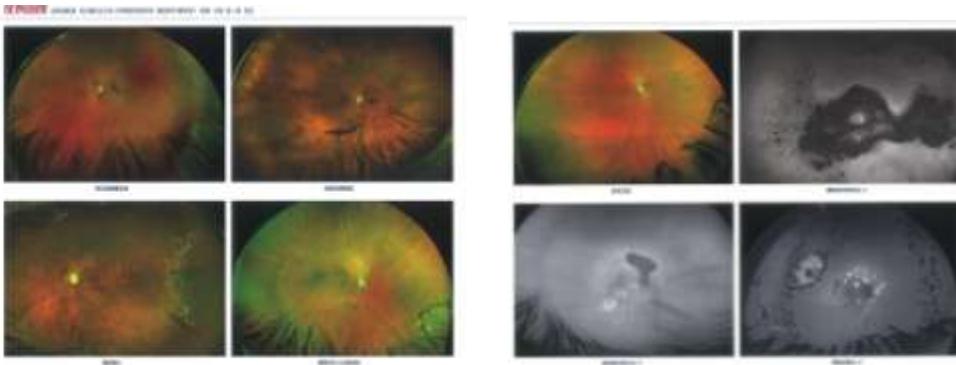


- ・グリーンレーザー光による眼底自発蛍光画像は、ドムレーゼン効果となるリポフスチンを表示し、AMD などの診断をサポートします。
- ・瞳孔径が 4 mm 以上あれば、非接触で網膜の高解像度画像が撮影できるため、検査時間の短縮に寄与します。
- ・レーザーを使用しているため、白内障などの装置があっても、屈折異常画像を取得できる場合があります。

当院ではより安心して詳しい外来診療を目指して、超広角走査型レーザー検眼鏡を導入いたしました。簡単に説明すると無散瞳下（黒目を目薬で大きくしない状態）ではどうしても診療に限界があります。しかしながら、散瞳（黒目を大きくする）すると数時間は見えなくなり運転等に支障をきたします。そこで、無散瞳下でも網膜等（目の奥の大事な膜の部分）を全体の約 80%を撮影できる検査機器を導入したわけです。糖尿病性網膜症などの眼底出血などを含め様々な眼疾患の早期発見や経過観察にとっても役に立つと考えられています。

痛みもなく簡単に撮影ができ、非常に有意義な機器であると考えます。

(文責 院長)



## コロナワクチン2回目接種してきました！

4月5日と26日にコロナワクチンの先行接種を受けました。接種時の痛みは、1回目はチクッと針をさす痛みがありましたが、3週間後の2回目は針をさす痛みさえありませんでした。

接種後の副反応は、1回目の接種後、接種日の夕方から腕の痛みがありました。さらに、2回目は、腕の痛みが強く、歩く振動さえも痛くて腕が上がりにませんでした。ただし3日目は腕の痛みはありましたが和らいでいき、4日目には痛みは治まりました。

また特に2回目の接種後は接種日夕方から、腕の痛み、眠気、倦怠感や頭痛がありました。2日目には、腕の痛み、眠気、倦怠感、関節痛、頭痛、37度台の微熱がでました。3日目以降は腕の痛みが少しありましたが、微熱や倦怠感などの症状は治まってきました。

ワクチンを接種する際は、接種することはコロナ対策に対して大事なのですが、接種後の予定を控えるなどあらかじめ考えておいた方がよいと私は思いました。

文責 児野

## 往診・訪問診療について

往診・訪問診療をご希望の方は  
院長までご相談ください。